

平成30年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(第5学年対象) における本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

1 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について

小学5年生と中学2年生を対象として、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」が行われました。本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○現状、△課題、→改善のための本校の取組）

実施 教科	A 問題 (主として知識に関する問題)	B 問題 (主として活用に関する問題)
国語	○「関心・意欲・態度」について9割の児童が肯定的な回答をしている。 →児童の実態や関心に沿った学習が進められている。 ○音声を聞いて答える問題の正答率が8割を超えている。 →話し合い活動や発表する活動を取り入れることで、児童の自信をより高められるようにする。 △「書く力」に関する問題では、東京都の平均を下回った。 →これまでの学力調査の結果と比較すると正答率は上がっている。引き続き、書く活動を取り入れた授業に取り組む。	○「取り出す力」「読み取る力」「解決する力」を合計した正答率は東京都の平均を上回っている。 →4年生で学習した「要約」をする力が着実に身に付いている。 △「読み取る力」のみに着目すると、東京都の平均を少し下回っている。 →他教科においても新聞、表、グラフ等を積極的に活用させることで、読み取る力を高める。
社会	○「思考・判断・表現」に関する問題では、東京都の平均正答率を上回っている。 △「知識・理解」に関する問題では、東京都の平均を下回っている。 →各都道府県、市区町村に関する学習や産業に関する予習では、事例地の位置を地図帳で確認する習慣を身に付けさせる。	○「読み取る力」「解決する力」に関する問題では、東京都の平均正答率を上回っている。 △どちらの正答率も全体の5割程度である。 →他教科においても、新聞、表、グラフ等を積極的に活用させる。

算数	○すべての観点において東京都の平均正答率を上回っている。 →引き続き習熟度別指導を通して、きめ細やかな指導を行う。 △「思考・判断・表現」を問う問題では正答率が4割、「知識・理解」では5割程度である。 →基礎学力の定着を図るとともに、応用問題にも取り組ませる。	△「解決する力」に関する問題では、複数の資料が提示された場合に、全てを読み取ることができていない。 →問題に応じて、図、数直線、線分図等の思考を補助するための手だてを活用する力を身に付けさせる。
理科	○9割の児童が理科の学習にすすんで取り組もうとしている。 △すべての観点において東京都の平均正答率を下回っている。 →特に正答率の低い「技能」の観点を伸ばすため、見通しや目的意識をはっきりとさせてから実験を行ったり、器具を操作したりすることを定着させる。	○すべての観点において東京都の平均正答率を上回っている。 →理科を担当する講師によりティームティーチングによる指導を進めている。指導上のポイントや留意点を共通して指導することができている成果と捉えられる。
質問紙調査 児童・生徒	○外国語活動に関する調査では、「外国語活動が好きですか。」「英語を使えるようになりたいですか。」という問いに全児童が肯定的な回答をしている。 →ベーシックタイムを通して、継続的に外国語に触れていることが児童の意欲・関心を高めることにつながった。 ○全体の7割にあたる児童が「毎日1時間程度の読書をしている。」と回答している。 →国語の「読む力」に関する問題の正答率は8割程度である。互いにおすすめの図書を紹介し合う活動を取り入れることで、より広いジャンルの図書に触れる機会を設けていく。	

3 結果のご家庭での活用について

教科数の多い調査であり、実施にあたっては午前中いっぱいの時間を要しました。そのような中で、子どもたちはよく集中力を持続し頑張ったと感じています。ご家庭においても、引き続き学習の時間は集中して取り組むことができるよう励ましの言葉をかけていただけますと幸いです。

また、家庭学習は、発展的な学習に取り組むよい機会でもあります。同時に、基礎を見直す機会ともしたいものです。学校での学習指導においても、子どもたちの意欲の高さや発想のよさを活かしつつ、折にふれて振り返りを含めながら基礎・基本の定着を確認して学習を進めていけるように努めていきます。